

議会報告会での意見等に対する調査検討結果

【地方創生まちづくり特別委員会】

会場	参加者の質問・意見	委員会の回答
美野里	<p><ヨーグルト・サミットについて> ・イベントの内容の報告だけで、サミットによって、どのような事が決まったのか？ 今後、どのように活かしていくか等、市のヨーグルトや酪農の、今後について知らせてほしい。</p>	<p>今回のヨーグルトサミットでは参加自治体ならびにヨーグルトメーカーにより</p> <ol style="list-style-type: none"> ①今後も良質な生乳とヨーグルトを生産すること ②消費者のニーズ・多様な思考に対応し、ヨーグルトの価値と地位を確立すること ③乳業・酪農業の後継者育成と課題解決に積極的に取り組むこと ④ヨーグルト産業の発展に向けて互いに補完し、情報発信、販路拡大に取り組むこと ⑤地域経済とまちづくりの活性化を推進すること <p>以上の「ヨーグルト産地共同宣言」をしました。 市当局からは「第1回開催地としてこの宣言の5項目を率先して実践していくとともに、ヨーグルトのまち小美玉として印象づけられた成果を活かし、地域経済とまちづくりの活性化に取り組んいく」との回答がありました。</p> <p>市議会でも、経済効果や来場者などの数字だけでなく、サミットを開催したことによる市民ボランティア同士の交流によるシビックプライドの醸成や市外の方々との繋がりなど大きな成果があったものと考えております。今後もサミットの成果を市の財産とし、益々魅力ある小美玉市の実現に向けて調査研究してまいります。</p>

議会報告会での意見等に対する調査検討結果

【地方創生まちづくり特別委員会】

会場	参加者の質問・意見	委員会の回答
玉里	<p><ダイヤモンドシティプロジェクトについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつまでに、何をもって成果とするのか。 ・次期の総合戦略の基本的な考えは何か。 	<p>市の総合戦略（ダイヤモンドシティプロジェクト）では、2040年に46,000人の人口を維持できたかどうかを成果目標にしております。</p> <p>また、この総合戦略は社会の変化や事業チェックを元に、5年ごとに改定することになっており、次期総合戦略について、市当局からは「国が6月に閣議決定した基本方針に示された「Society5.0」や「SDGs」など新たな時代の流れに対応しながら、若者の定住促進、雇用対策、しごとの創出、結婚支援などの人口減少対策に重点を置いて、実現性と実効性のある戦略にしていきたいと思います」との回答がありました。</p> <p>市議会としても、先進地の調査研究、事業効果の検証、市民の皆様からのご提案などをもとに、魅力ある小美玉市実現のために提言などを通して取り組んでまいります。</p> <p>※「Society5.0」 サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会</p> <p>※「SDGs」 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。</p>

議会報告会での意見等に対する調査検討結果

【地方創生まちづくり特別委員会】

会場	参加者の質問・意見	委員会の回答
玉里	<p><星空観測について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コスモス」周辺は、自然環境が素晴らしく、以前、星の観測を開催した経緯もあることから、「星空の見える町」として、観光の一つとして取り上げて、予算を取って観測所を作って欲しい。 	<p>ご提案内容を市当局へお伝えしました。「小美玉市でも、水の交流エリアに位置付けている霞ヶ浦沿岸地域を中心として取り組み始めるところで、星空はその企画の1つとして検討したいと思います」との事です。その際にはぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>また、議会としても、玉里地区の観光振興について市当局に提言した経緯があり、霞ヶ浦周辺の自然環境は小美玉市の貴重な観光資源と考えております。地域住民だけが知る、まちの魅力をより多くの方々知っていただき、小美玉市の発展に繋がるよう市当局とともに調査研究してまいります。</p>
小川	<p><バイオマスについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスについて、処理はどのようになっているか。 	<p>バイオマス発電について市当局に改めて確認したところ「バイオマスの活用については、どのような状況、ニーズ等があるのか、市養鶏協会や発電事業者等と意見交換を行ってまいりました。発電方法により活用する家畜の糞尿の種類が異なるなど、いろいろな可能性があるとともに、安定した事業実施には、20年以上安定した糞尿を供給できる畜産経営が不可欠であるため、畜産事業者の意向、市の関わり方について、引き続き調査検討してまいります」との回答がありました。</p> <p>市議会でも、先進地への研修や議員間でのプレゼンテーション等を実施し執行部とも何度も意見交換しましたが、事業化するには、財政面・立地や地域住民の理解・専門知識の修得など、市が事業主体として関わっていくことは難しいとの意見が多くありました。しかし、バイオマス事業に興味を示している民間事業者もあることから、可能な範囲で応援していただくよう執行部に対し要望いたしました。</p>